

研究者から見た機関リポジトリ

(URAから見た機関リポジトリ)

横浜国立大学 研究推進機構
特任教員（准教授）リサーチ・アドミニストレーター
矢吹 命大
yabuki-nobuhiro-gw@ynu.ac.jp

2018年10月25日

2018年度機関リポジトリ新任担当者研修（第3回）

@国立情報学研究所

本日お話しする内容

1. 自己紹介
2. リサーチ・アドミニストレーター（URA）とは
3. 横浜国立大学の紹介
4. 横浜国立大学のURA
5. 研究力分析：研究IR
6. Open Accessと機関リポジトリ
7. 論文投稿支援と機関リポジトリ
8. 教育系・人文社会系と機関リポジトリ
9. 機関リポジトリとORCID
10. 機関リポジトリ登録数の増加によるOA拡大
11. 終わりに

1. 自己紹介

もともとは（現在も？）IRの研究者

- 平成17年3月 筑波大学第三学群国際総合学類 卒業
- 平成17年4月 筑波大学大学院一貫制博士課程
人文社会科学研究科国際政治経済学専攻 入学
- 平成19年3月 修士（国際政治経済学）
- 平成24年3月 筑波大学大学院一貫制博士課程
人文社会科学研究科国際政治経済学専攻 単位取得退学
- 平成24年4月 国立大学法人筑波大学 人文社会系 特任研究員 採用
（人文社会科学研究科国際公共政策専攻 配属）
研究テーマ 「巨大科学プロジェクトを巡る国家間関係」
- 平成26年4月 国立大学法人横浜国立大学 研究推進機構
特任教員（講師）リサーチ・アドミニストレーター 採用

巨大科学プロジェクトを巡る国家間関係についての研究

平成24年4月－平成26年3月

国立大学法人筑波大学 人文社会系 特任研究員 勤務

○研究業務

研究課題：巨大科学プロジェクトを巡る国家間関係

調査対象分野：

核融合分野、宇宙科学分野、天文学分野、素粒子科学・放射光科学分野

調査方法：

行政文書の調査、関係者へのインタビュー調査、審議会の調査

→文科省を中心に審議会傍聴による調査実施

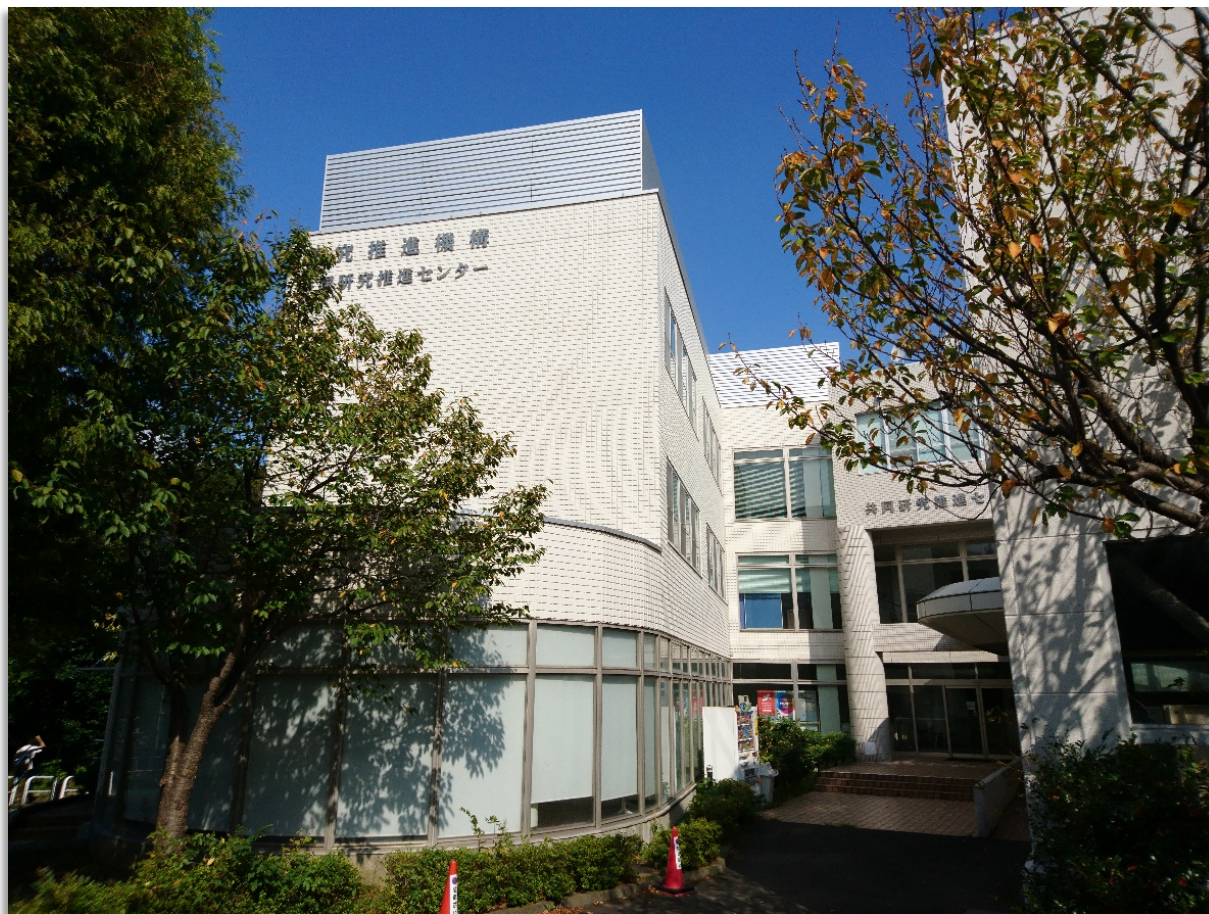
矢吹命大「日本の核融合研究政策における国際競争と国際協力」（筑波大学人文科学研究科国際公共政策専攻『国際公共政策論集』第31号）2013年2月。



現在の本業はリサーチ・アドミニストレーター

平成26年4月 国立大学法人横浜国立大学 研究推進機構

特任教員（講師）リサーチ・アドミニストレーター 採用



横浜国立大学研究推進機構 撮影日：2018年10月10日

2. リサーチ・アドミニストレー ター (URA) とは

2. リサーチ・アドミニストレーター（URA）とは

リサーチ・アドミニストレーター = **U**niversity **R**esearch **A**dministrator : **U**RA

「大学等において、研究者とともに（専ら研究を行う職とは別の位置づけとして）**研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用促進**を行う（単に研究に係る行政手続きを行うという意味ではない。）ことにより、**研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する人材**」

URAシステム整備についての現状①

（「平成28年度 大学等における産学連携等実施状況について」の関連調査より）

※本年、「平成28年度 大学等における産学連携等実施状況について」の関連調査として、「リサーチ・アドミニストレーターの整備状況等について」の作成協力を要請。

【調査に当たっての条件設定
（調査票より抜粋）】

【関連調査 様式10について】

※本関連調査は、貴機関において「リサーチ・アドミニストレーターの育成・確保」に最も関連が深いと考えられる部署において実績等を調査し作成してください。
（想定している部署）大学等の研究推進部課、研究協力部課、産学官連携推進部課、・・・等

※本関連調査は、我が国の大学等でURAが必要とされている反面、URAの整備は不十分であるとされる状況に具体的に承知するため、「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」事業の平成23年度からの開始に合わせ、大学等におけるURA職の中心的部分を捉えるための調査項目を設定しています。

○リサーチ・アドミニストレーター（URA）とは

※本調査におけるURAとは、大学等において、研究者とともに（専ら研究を行う職とは別の位置づけとして）研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用促進を行う（単に研究に係る行政手続きを行うという意味ではない。）ことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する人材を指すこととします。

例えば、以下のようなものがURAの業務として考えられます。

- ① 研究戦略推進支援（政策情報等の調査分析、研究力の調査分析、研究戦略策定）
- ② プレ・アワード（研究プロジェクト企画立案支援、外部資金情報収集、研究プロジェクト企画のための内部折衝活動、研究プロジェクト実施のための対外折衝・調整、申請資料作成支援）
- ③ ポスト・アワード（研究プロジェクト実施のための対外折衝・調整、プロジェクトの進捗管理、プロジェクトの予算管理、プロジェクト評価対応関連、報告書作成）
- ④ 関連部門（教育プロジェクト支援、国際連携支援、産学連携支援、知財関連、研究機関としての発信力強化推進、イベント開催関連、安全管理関連、倫理・コンプライアンス関連）

（注）この内容は、平成23年度から文部科学省で実施している補助金事業「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」（リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備）（以下関連調査 様式12において「URA配置支援補助金」という。）公募要領の「（2）事業の目的」からの引用と、東京大学「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備（スキル標準の作成）」成果報告書を基に作成しています。

外部資金の獲得からその運営、大学の研究戦略立案も

（１）研究戦略推進支援業務

- ①政策情報等の調査分析
- ②研究力の調査分析
- ③研究戦略策定

（２）プレアワード業務

- ①研究プロジェクト企画立案支援
- ②外部資金情報収集
- ③研究プロジェクト企画のための内部折衝活動
- ④研究プロジェクト実施のための対外折衝・調整
- ⑤申請資料作成支援

（３）ポストアワード業務

- ①研究プロジェクト実施のための対外折衝・調整
②プロジェクトの進捗管理

- ③プロジェクトの予算管理
- ④プロジェクト評価対応関連
- ⑤報告書作成

(4) 関連専門業務

- ①教育プロジェクト支援
- ②国際連携支援
- ③産学連携支援
- ④知財関連
- ⑤研究機関としての発信力強化推進
- ⑥研究広報関連
- ⑦イベント開催関連
- ⑧安全管理関連
- ⑨倫理・コンプライアンス関連

リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備

目 的

- 研究者の研究活動活性化のための環境整備
- 大学等の研究開発マネジメントの強化
- 科学技術人財のキャリアパスの多様化

② 研究開発に知見のある人材を大学等がリサーチ・アドミニストレーターとして活用・育成することを支援

リサーチ・アドミニストレーター (URA)

大学等において、研究者とともに、研究企画立案、研究資金の調達・管理、知財の管理・活用等を行う人材群を育成・確保する全国的なシステムを整備するとともに、専門性の高い職種として定着を図る。



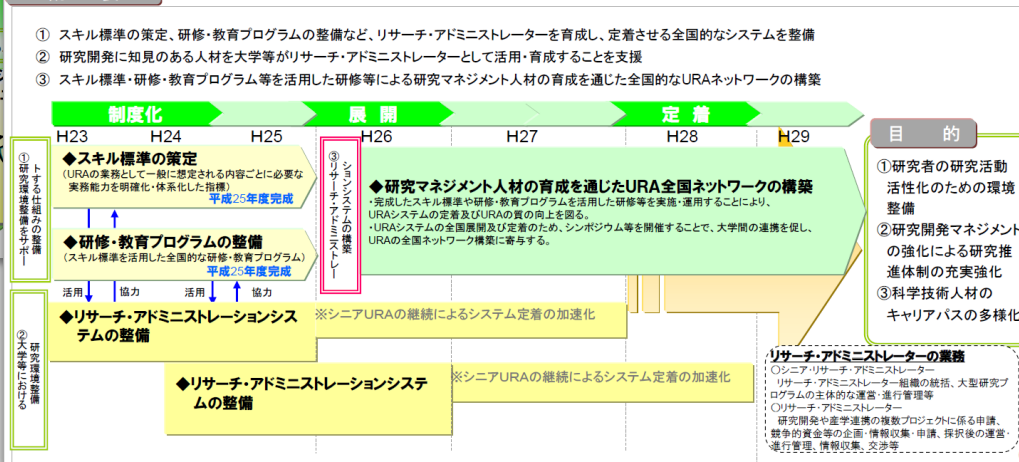
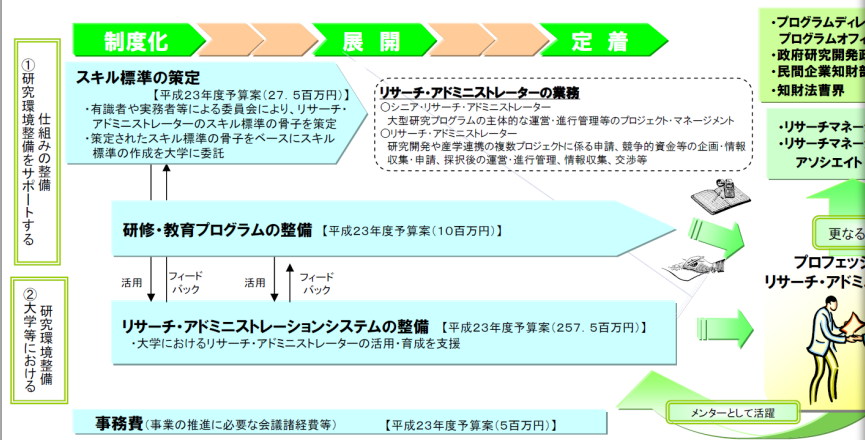
背景

我が国の大学等では、研究開発内容について一定の理解を有しつつ、研究資金の調達・管理、知財の管理・活用等を行う人材が十分ではないため、研究者が行う活動以外の業務で過度の負担が生じている状況にある。

(調査：社会サービス、労働政策研究・研修機構)

年次	研究に關する理解	650	298	539
2002年	1,346			
2008年	1,041	823	451	569

数値の増加は年々平均増加率約10%、科学技術政策研究院(2011.12)



文部科学省、「平成29年度事業概要」リサーチ・アドミニストレーター（URA）を育成・確保するシステムの整備
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/science/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/17/1360588_06.pdf（閲覧：2017-10-20）

2. リサーチ・アドミニストレーター（URA）とは

平成28年度調査では102機関、916名がURAとして配置

URAシステム整備についての現状②

（「平成28年度 大学等における産学連携等実施状況について」の関連調査より）

【調査結果の例】

（）は前年度の数

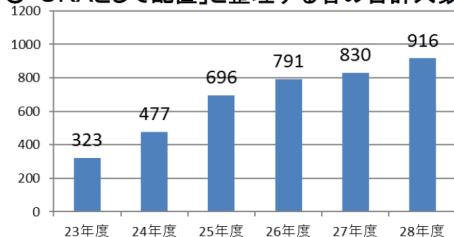
○「URAとして配置」と整理する者が「いる」と回答した機関数 102機関(93)

○「URAとして配置」と整理する者の内訳

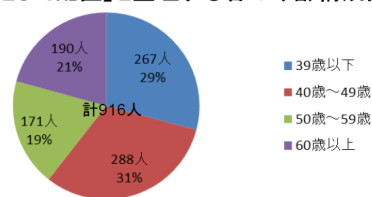
種別	人数	雇用経費	人数
①に該当する者	254(257)	URA配置支援補助金	13(25)
		研究大学強化促進費	241(232)
②に該当する者	447(384)	機関の運営経費	319(277)
		外部資金	128(107)
③に該当する者	215(189)	機関の運営経費	185(159)
		外部資金	30(30)
合計			916(830)

- ①→「URA配置支援補助金」、「研究大学強化促進費」で雇用したURA
②→①以外の経費で雇用し、URAとしての業務に専念専従させている者（①に準ずる者）
③→①以外の経費で雇用し、全業務時間の半分以上をURAとしての業務に従事させている者

○「URAとして配置」と整理する者の合計人数



○「URAとして配置」と整理する者の年齢構成割合



○「URAとして配置」と整理する者の年齢構成

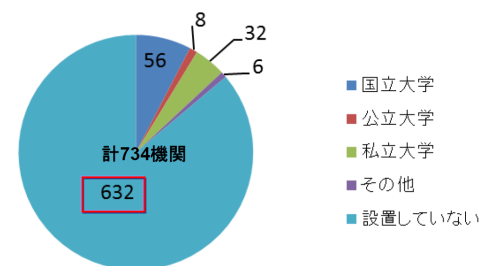
	39歳以下	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳以上	合計
人数	267人	288人	171人	190人	916人

URAシステム整備についての現状⑦

（「平成28年度 大学等における産学連携等実施状況について」の関連調査より）

○約86%の大学等はリサーチ・アドミニストレーターを配置していない。

○ URAの配置状況



文部科学省、「平成28年度URAシステム整備についての現状」

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/science/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/06/06/1316577_04.pdf（閲覧：2018-10-20）

機関ごとにURAの在り方は多様、業務も多様

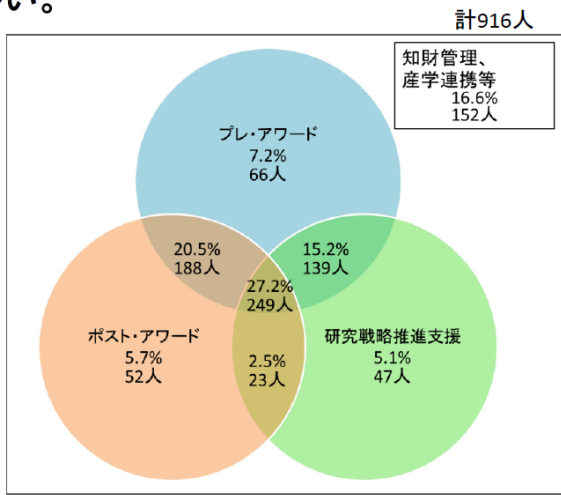
URAシステム整備についての現状④
(「平成28年度 大学等における産学連携等実施状況について」の関連調査より)

【調査結果の例】

○「URAとして配置」と整理する者の職務従事状況

	主としてプレ・アワード担当	主としてポスト・アワード担当	主として研究戦略推進支援担当	プレ・アワード及びポスト・アワード担当	プレ・アワード及び研究戦略推進支援担当	ポスト・アワード及び研究戦略推進支援担当	プレ・アワード、ポスト・アワード、研究戦略推進支援担当	その他	小計
主たる担当業務別の従事人数	66人	52人	47人	188人	139人	23人	249人	152人	916人

この条件設定では、プレ・アワード、ポスト・アワード、研究戦略推進支援を担当するURAが多い。



プレ・アワード業務:
プロジェクトの企画から設計、調整、申請までを担う以下のような業務を指します。
研究プロジェクト企画立案支援/外部資金情報収集/研究プロジェクト企画のための内部折衝活動/研究プロジェクト実施のための対外折衝・調整/申請資料作成支援

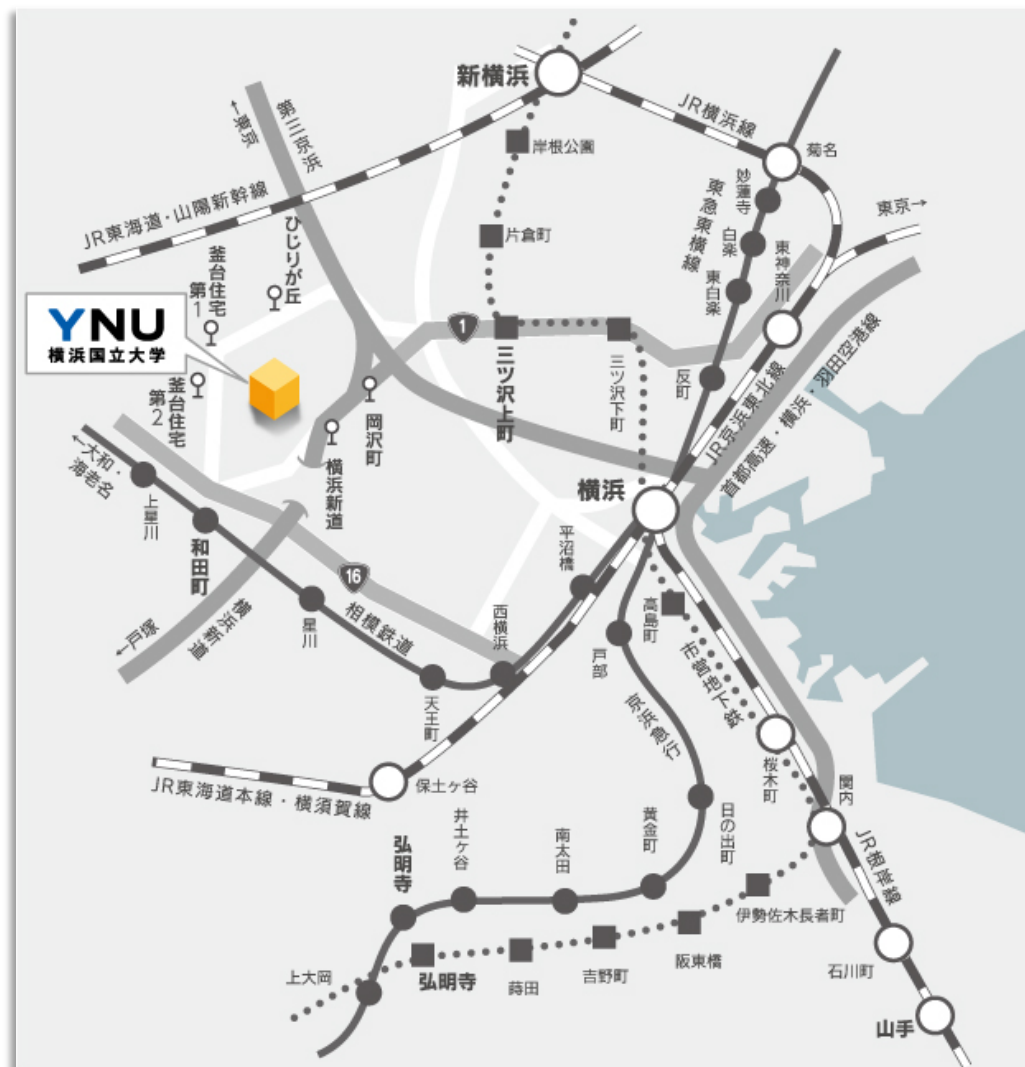
ポスト・アワード業務:
プロジェクト採択後の適正な運営に関する以下のような業務を指します。
研究プロジェクト実施のための対外折衝・調整/プロジェクトの進捗管理/プロジェクトの予算管理/プロジェクト評価対応関連/報告書作成

研究戦略推進支援:
国の科学技術政策の調査分析や学内研究資源の把握等以下のような業務を指します。
政策情報等の調査分析/研究力の調査分析/研究戦略策定

3. 横浜国立大学の紹介

3. 横浜国立大学の紹介

横浜国立大学は文理が一カ所に集う都市型総合大学



- 1949年設置（神奈川師範学校、神奈川青年師範学校、横浜経済専門学校、横浜工業専門学校を母体として設置）
- 1970年代半ばより現在の常盤台地区へ移転し、全学部が一カ所に集約
- 2018年現在5学部、5大学院から構成

5 学部、5 大学院、学生数約 1 万人の総合大学

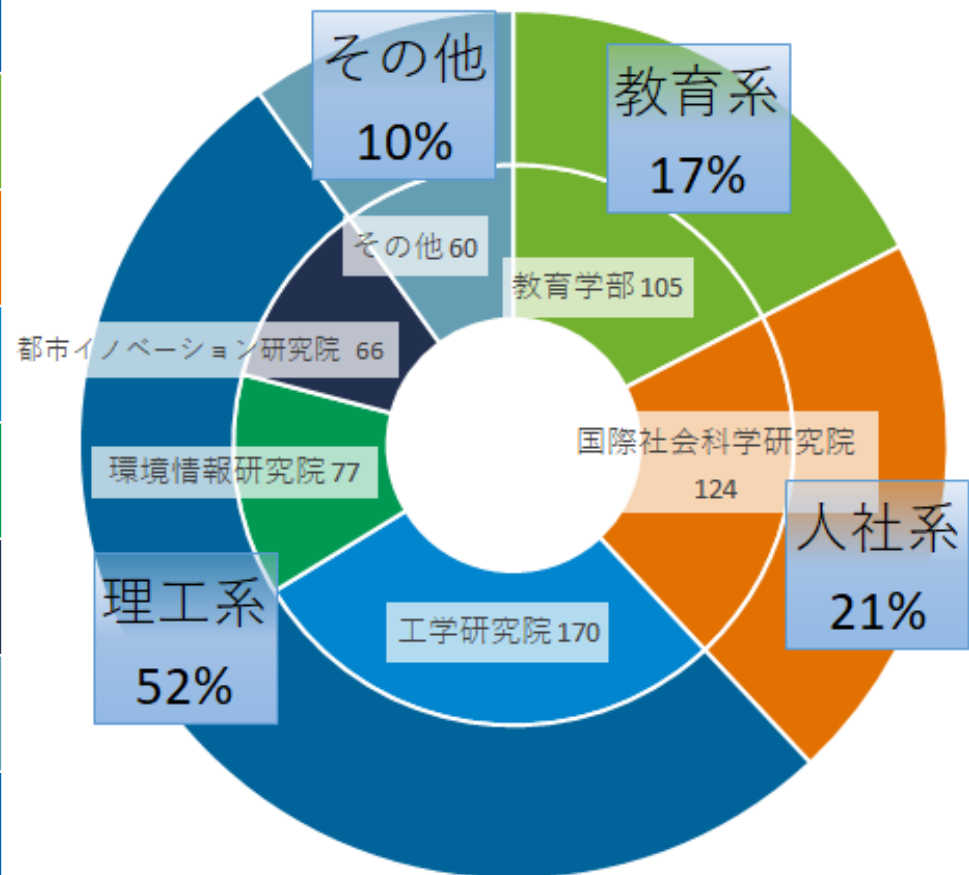
学部 (学生数 7,416)	大学院 (修士・博士前期1,814 / 博士後期464 / 専門職58)
教育学部 (1,354) ※教育人間科学部含む	教育学研究科 (修士212 / 教職大学院20)
経済学部 (1,113)	国際社会科学府 (博士前期254 / 博士後期103 / 法科大学院38)
経営学部 (1,352)	理工学府 (博士前期726 / 博士後期134) ※工学府含む
理工学部 (3,100) ※工学部含む	環境情報学府 (博士前期370 / 博士後期159)
都市科学部 (497)	都市イノベーション学府 (博士前期252 / 博士後期68)

2018年5月1日現在 15

3. 横浜国立大学の紹介

常勤教員数約600名、半数が理工系所属
残り半数を人文社会系、教育系で分けている

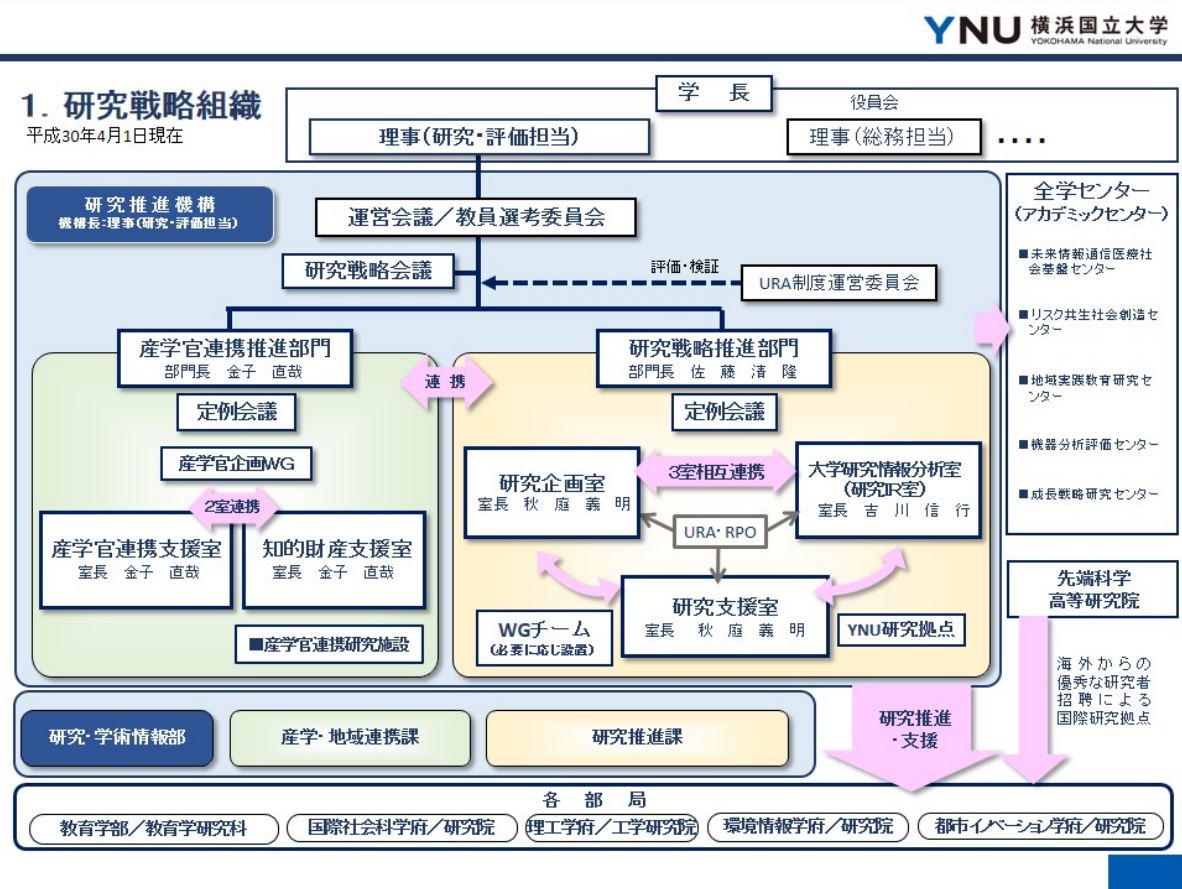
部局	人数
教育学部	105
国際社会科学研究院	124
工学研究院	170
環境情報研究院	77
都市イノベーション研究院	66
その他	60
計	602



2018年5月1日現在

4. 横浜国立大学のURA

URAは研究推進機構研究戦略推進部門に所属



- 産学連携推進本部・研究戦略推進本部の統合により2013年10月設置
- 2013年7月よりURAを配置（2名→5名→4名→3名→4名）。
- シニアURA1名、URA4名体制、自己資金で整備。
- URAは特任教員として雇用され、エフォートの20%を自らの研究に割くことを認められている。

横浜国立大学研究推進機構「概要・組織」 <http://www.ripo.ynu.ac.jp/about/>（閲覧：2018-10-20）

URA4名で関連部署と連携し多様なミッションに対応

研究企画室

1. 大型の全学的な研究プロジェクトの企画・立案及び申請支援に関すること。
2. 科学技術・学術政策、制度動向に関する分析、収集及び提供に関すること。
3. 科学研究費等外部資金獲得の活動企画に関すること。
4. 産学官公連携関係の定常的推進に関すること。

研究支援室

1. 教育研究高度化の支援に関すること。
2. ライフサイエンス等の支援に関すること。
3. 公正研究等の啓発活動と支援に関すること。
4. 外国為替及び外国貿易法への対応に関すること。

大学研究情報分析室

1. 学内教員研究情報収集に関すること。
2. 学内の研究分野の調査に関すること。
3. 公的研究費公募情報の収集に関すること。
4. 世界ランキングへの対応と対策に関すること。

上記規則上のミッション以外にも多様なミッションへ対応。

矢吹の場合は調査と学術基盤整備が中心

• 政策動向調査

- 科学技術・学術政策の最新動向をまとめ、毎月レポートを作成し展開

• 研究力分析：研究IR

- 書誌データを用いた研究活動の把握と分析
→学内DBや二次文献DB等を用いた分析を実施

• 公募事業申請支援

- 全学単位での申請となるプロジェクトの企画、申請支援の実施

• 論文投稿料等支援事業（研究推進課、経理課、図書館情報課と連携）

- 一定の基準を満たした国際ジャーナルへの投稿料等を支援制度の企画運用

• オープンサイエンスの推進（附属図書館との連携）

- オープンサイエンスワークショップ
- オープンアクセス勉強会

研究活動の活性化と成果の発信強化への注力

- **政策動向調査** 大学を取り巻く環境の現状把握
 - 科学技術・学術政策の最新動向をまとめ、毎月レポートを作成し展開
- **研究力分析：研究IR** 大学の研究活動の現状把握
 - 書誌データを用いた研究活動の把握と分析
→学内DBや二次文献DB等を用いた分析を実施
- **公募事業申請支援** 資金獲得による研究活動の活性化支援
 - 全学単位での申請となるプロジェクトの企画、申請支援の実施
- **論文投稿料等支援事業**（研究推進課、経理課、図書館情報課と連携）
 - 一定の基準を満たした国際ジャーナルへの投稿料等を支援制度の企画運用 研究成果発信の支援・強化
- **オープンサイエンスの推進**（附属図書館との連携）
 - オープンサイエンスワークショップ
 - オープンアクセス勉強会 学術情報流通の変化への対応

図書館業務・機関リポジトリと関連するところは、、、

研究力分析→積極的な成果発信への関心

- 政策動向調査
 - 科学技術・学術政策の最新動向をまとめ、毎月レターを作成し展開
- **研究力分析：研究IR**
 - 書誌データを用いた研究活動の把握と分析
→学内DBや二次文献DB等を用いた分析を実施
- 公募事業申請支援
 - 全学単位での申請となるプロジェクトの企画、申請支援の実施
- **論文投稿料等支援事業（研究推進課、経理課、図書館情報課と連携）**
 - 一定の基準を満たした国際ジャーナルへの投稿料等を支援制度の企画運用
- **オープンサイエンスの推進（附属図書館との連携）**
 - オープンサイエンスワークショップ
 - オープンアクセス勉強会

5. 研究力分析：研究IR

研究力分析：研究IR

- 政策動向調査
 - 科学技術・学術政策の最新動向をまとめ、毎月レポートを作成し展開
- **研究力分析：研究IR**
 - 書誌データを用いた研究活動の把握と分析
→学内DBや二次文献DB等を用いた分析を実施
- 公募事業申請支援
 - 全学単位での申請となるプロジェクトの企画、申請支援の実施
- 論文投稿料等支援事業（研究推進課、経理課、図書館情報課と連携）
 - 一定の基準を満たした国際ジャーナルへの投稿料等を支援制度の企画運用
- **オープンサイエンスの推進**（附属図書館との連携）
 - オープンサイエンスワークショップ
 - オープンアクセス勉強会

機関の研究活動进行分析する仕事 研究IR

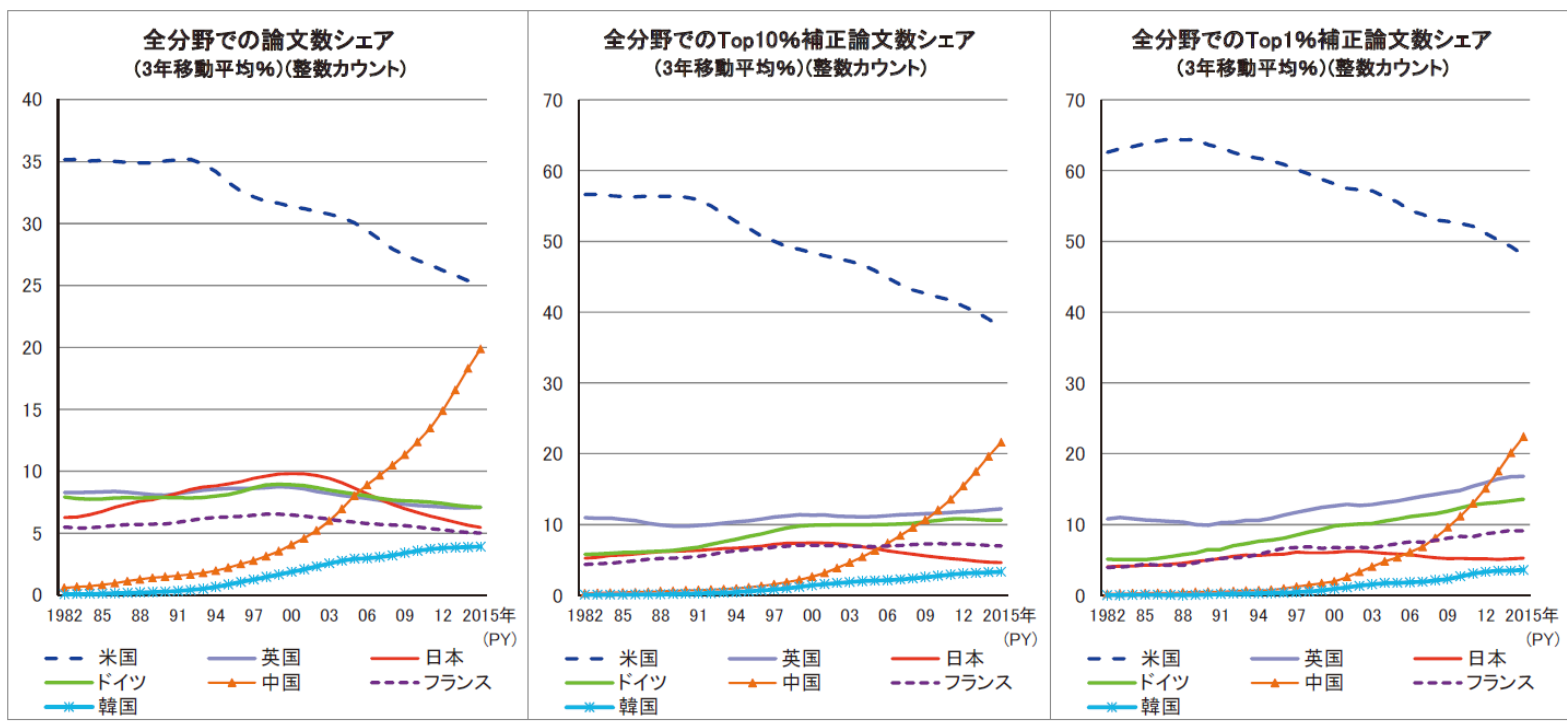
- 研究IR：研究活動に関する**Institutional Research**
- 定量的・定性的双方のデータを活用して機関の研究活動の状況を把握し、**研究戦略立案の基礎となるエビデンスを提供**する。
- **計量書誌学的手法**での分析活動もよく行われる。
 - 論文数、被引用数、被引用数関連指標、共著分析など
 - 研究者総覧データベースの活用
 - **二次文献データベース**
(Web of Science、Scopus、CiNii、J-GLOBAL…)
- 競争的研究資金の獲得状況の分析も組み合わせて実施
 - 機関内部の財務データ(共同研究、受託研究、寄付金)
 - **科学研究費助成事業データベース** (<https://kaken.nii.ac.jp/>)



論文数シェアの低下と被引用インパクトの低下問題

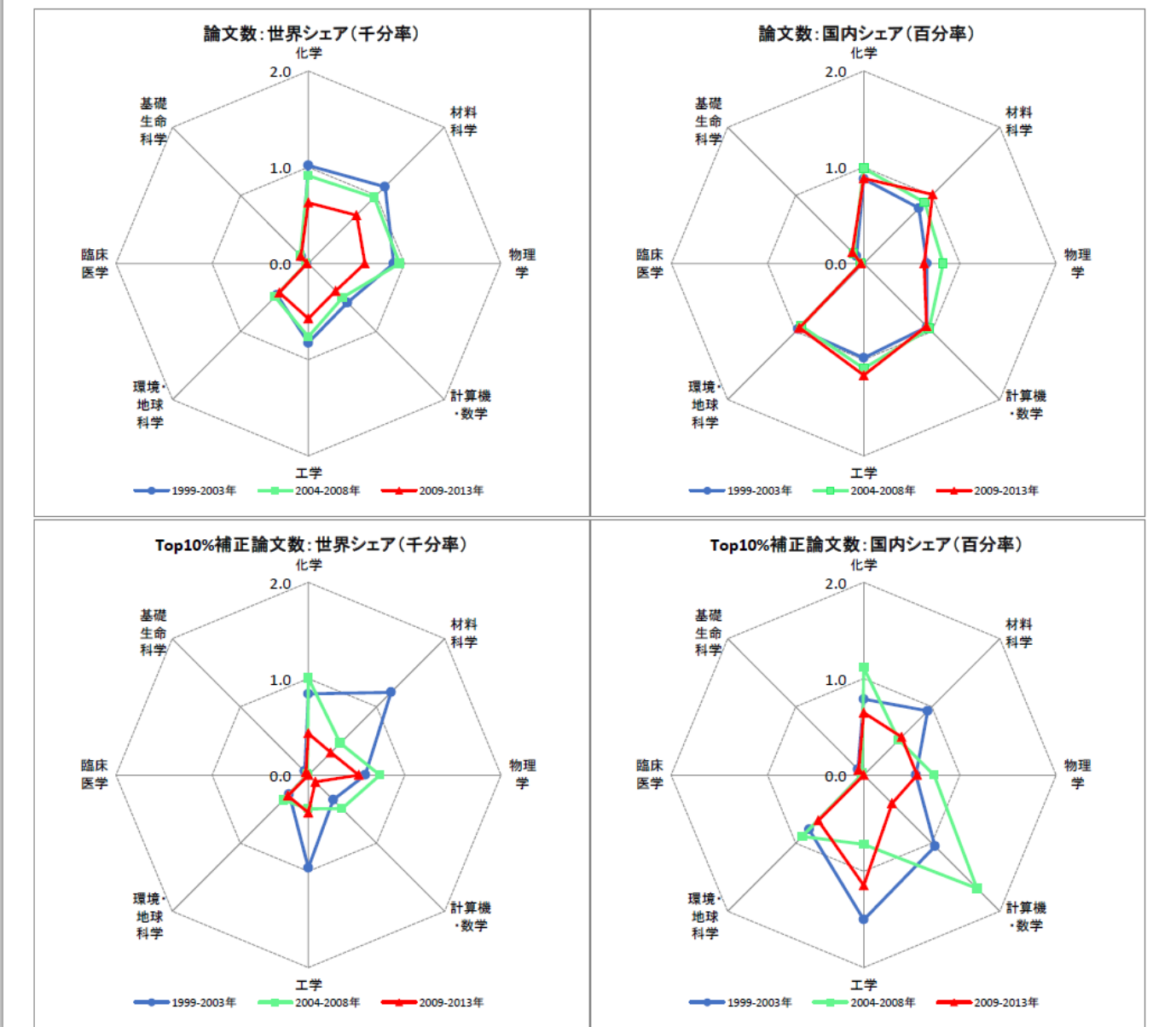
【図表 4-1-7】 主要国の論文数、Top10%補正論文数、Top1%補正論文数シェアの変化
(全分野、整数カウント法、3 年移動平均)

(A) 整数カウント法による



注：分析対象は、Article、Review である。年の集計は出版年 (Publication year, PY) を用いた。全分野での論文数シェアの 3 年移動平均 (2015 年であれば PY2014、PY2015、PY2016 年の平均値)。整数カウント法である。被引用数は、2017 年末の値を用いている。
資料：クラリベイト・アナリティクス社 Web of Science XML (SCIE, 2017 年末バージョン) を基に、科学技術・学術政策研究所が集計。
参照：表 4-1-7

横浜国立大学(日本:PY1999-2013)



論文数、被引用数の増加対策を考える必要も。。。

- **大学ランキング**では論文数や被引用数指標が効いてくる。
 - Times Higher Education World University Rankings 2019の評価指標
 - Education 30%(Reputation 15%, Staff-to-Student ratio…)
 - **Research 30%(Reputation 18%, Research Income 6%, Research Productivity 6%)**
 - **Citation 30%**
 - International Outlook (7.5%)
 - Industry Income (2.5%)

Times Higher Education. *World University Rankings 2019: methodology*, Retrieved 2018-10-20,
from <https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/methodology-world-university-rankings-2019>

- 第5期科学技術基本計画期間の目標値
「我が国の**総論文数を増やしつつ**、我が国の総論文数に占める**被引用回数トップ10%論文数の割合が10%**となることを目指す。」
- そんなに日本の研究レベルが下がっているのか？
 - 視認性の問題もあるのではないか・・・

6. Open Accessと機関リポジトリ

“Open Access論文の被引用数は平均に対して18%多い”
(Piwowar, H. et al., 2018)

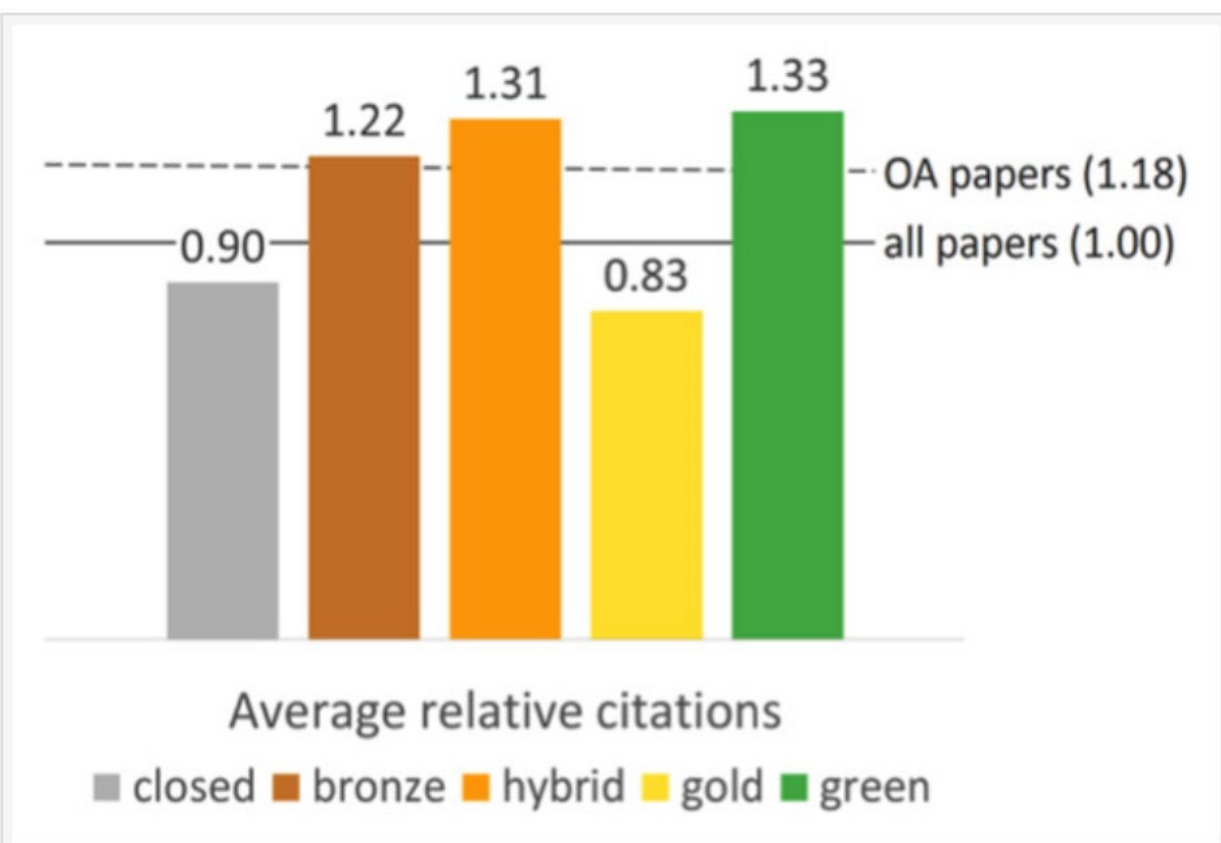


Figure 5: Average relative citations of different access types of a random sample of WoS articles and reviews with a DOI published between 2009 and 2015.


- 特にハイブリッドOAとグリーンOAの寄与が高い
- ※OAの種類
- **Gold:** Published in an open-access journal that is indexed by the DOAJ.
- **Green:** Toll-access on the publisher page, but there is a free copy in an OA repository.
- **Hybrid:** Free under an open license in a toll-access journal.
- **Bronze:** Free to read on the publisher page, but without an clearly identifiable license.
- **Closed:** All other articles, including those shared only on an ASN or in Sci-Hub.

*Piwowar H, Priem J, Larivière V, Alperin JP, Matthias L, Norlander B, Farley A, West J, Haustein S. (2018) The state of OA: a large-scale analysis of the prevalence and impact of Open Access articles. PeerJ 6:e4375 <https://doi.org/10.7717/peerj.4375> 31

WoS-OA調査：国立大学と世界トップ大学の比較


- WoS収録の個別論文にOAフラグを利用して、諸大学のOA率 (PY=2010-2018, DT=Article & Review, 2018-06-26) を分析。
- THE2015-2018 **Top10大学**の各年**OA率中央値は50%前後**
Top10大学：
オックスフォード大学、ケンブリッジ大学、カリフォルニア工科大学、スタンフォード大学、マサチューセッツ工科大学、ハーバード大学、プリンストン大学、インペリアル・カレッジ・ロンドン、シカゴ大学、チューリッヒ工科大学、ペンシルベニア大学
- 日本の**国立大学**各年**OA率中央値は30%～40%**
 - OA率の高い大学もあるが、全体としては低め（YNUは低いグループ）

SHERPA/RoMEOを活用したGreen-OAの調査

- 非OA論文はどのようなものなのか？
 - OAに出来ないのか、していないだけなのか？
 - OAに出来るとして、費用がかかる話になるか？
- WoS収録論文について掲載誌のOAポリシーを調査
 1. WoS論文リストを作成
 2. 1のうち、別刷り請求先が本学所属著者となっているものを識別（本学所属著者が責任著者と想定）
 3. 掲載誌リストを作成（タイトル、ISSN両方で整理）
 4. SHERPA/RoMEOのAPI（Application Programming Interface）を用いてOAポリシーを一括取得
 5. 各論文と雑誌をキーにOAポリシーを結合
- 結果“ROMEO Colour :green”にも関わらず
横浜国立大学所属責任著者非OA論文が一定の割合で確認される。

ROMEIO Colour “green”ということとは；

Pre-printとPost-prontもしくは出版版PDFをアーカイブできる

... opening access to research

Home • Search • Journals • Publishers • FAQ • Suggest • About

Definitions and Terms

English | [Español](#) | [Magyar](#) | [Nederlands](#) | [Português](#)

[RoMEO Colours](#) | [Pre-print and Post-print](#) | [Mandated Open Access](#) | [Paid Open Access](#)

RoMEO colours

We have used different colours to help highlight publisher's archiving policies. These colours are a development from the original RoMEO project list, and differentiate between four categories of archiving rights:

ROMEIO colour	Archiving policy
green	can archive pre-print <i>and</i> post-print or publisher's version/PDF
blue	can archive post-print (ie final draft post-refereeing) or publisher's version/PDF
yellow	can archive pre-print (ie pre-refereeing)
white	archiving not formally supported

Each publisher's entry is coded according to one of these colour categories.

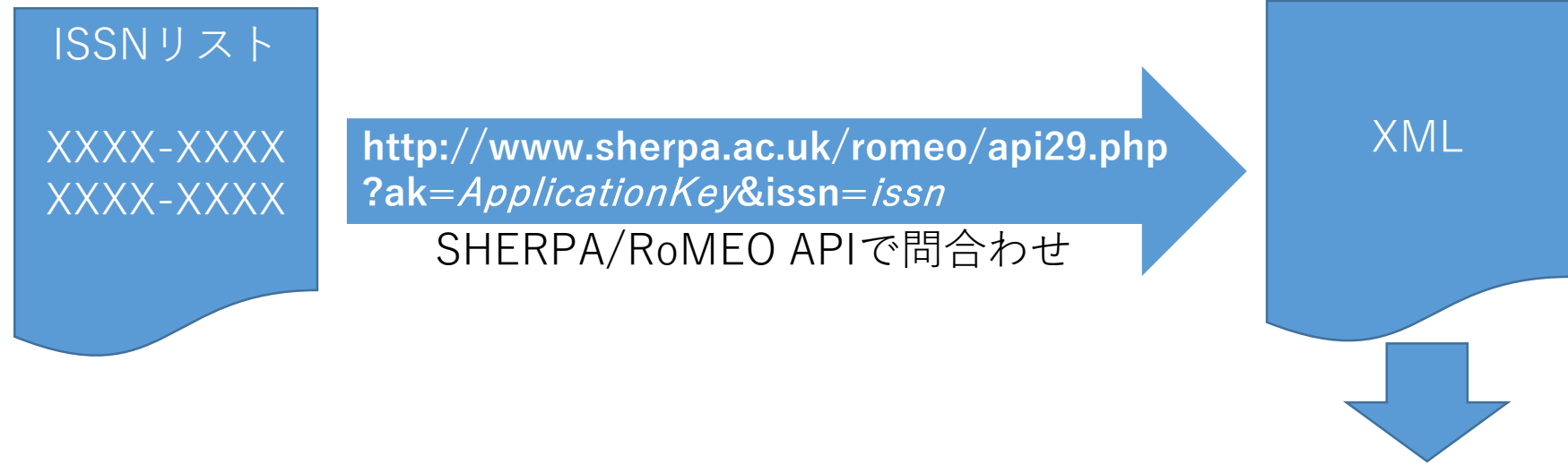
The entry for each publisher also lists conditions or restrictions imposed by the publisher which govern archiving rights or activities. *Conditions* are taken as terms which can be easily accommodated and which do not hinder an author in archiving their work. A typical condition is to acknowledge the publisher's copyright in the work. *Restrictions* are more prohibitive, typically requiring some additional action on behalf of the author. Where a *Restriction* effectively blocks access to the eprint, such as in the case of an embargo on its public release, or requiring password-controlled access, then the partial archiving right is noted but the full colour categorisation does not apply.

Sometimes open access discussions talk about "gold" publishers. This is a later development independent of RoMEO categories, and is used to describe publishers of open access journals. For the purposes of archiving, all open access journals allow archiving and can be taken as RoMEO "green".

Some of the larger publishers have different archiving rights for different journals. This is particularly the case where they publish learned society journals on behalf of the society. A learned society might insist on a more liberal, or more restrictive archiving policy than the general publisher's copyright agreement allows. The RoMEO colour coding relates to the overall permissions given by a publisher. For example, a publisher has to apply the "green" archiving rights across all of their journals for their code to be "green".

APIを通じてでXMLを取得してポリシーリストを作成

SHERPA/RoMEO_api_issn.pynb (Anaconda / jupyter notebookで開発・実行)



status	jtitle	issn	outcome	paidaccessname	paidaccessnotes	paidaccessurl	romeocolour	prearchiving	postarchiving	pdfarchiving
OK	Abstract and	1085-3375	singleJournal				green	can	can	can
OK	ACM Transa	0730-0301	singleJournal	ACM's author-pays	A paid open access	http://authors.ac	green	can	can	cannot
OK	ACS Applied	1944-8244	singleJournal	ACS AuthorChoice	A paid open access	http://pubs.acs.o	white	restricted	restricted	cannot
OK	ACS Biomat	2373-9878	singleJournal	ACS AuthorChoice	A paid open access	http://pubs.acs.o	white	restricted	restricted	cannot
OK	ACS Catalys	2155-5435	singleJournal	ACS AuthorChoice	A paid open access	http://pubs.acs.o	white	restricted	restricted	cannot
OK	ACS Energy	2380-8195	singleJournal	ACS AuthorChoice	A paid open access	http://pubs.acs.o	white	restricted	restricted	cannot
OK	ACS Macro L	2161-1653	singleJournal	ACS AuthorChoice	A paid open access	http://pubs.acs.o	white	restricted	restricted	cannot
OK	ACS Omega	2470-1343	singleJournal				white	restricted	restricted	restricted
OK	ACS Photoni	2330-4022	singleJournal	ACS AuthorChoice	A paid open access	http://pubs.acs.o	white	restricted	restricted	cannot
OK	ACS Sustain	2168-0485	singleJournal	ACS AuthorChoice	A paid open access	http://pubs.acs.o	white	restricted	restricted	cannot
OK	Acta Biomat	1742-7061	singleJournal	Open Access	A paid open access	http://www.elsev	green	can	can	cannot
OK	Acta Crystall	2053-2296	singleJournal	Open Access	A paid open access	http://journals.iu	green	can	can	can

機関リポジトリはOA化に活用されていないのか？

- 「IRDBコンテンツ分析」を手がかりに本学の機関リポジトリの特徴を見る (<https://irdb.nii.ac.jp/analysis/index.php>)。
- IRDB全体のコンテンツ分析を行うと、「紀要論文」が一番多いものの（53.19% 2018-10時点）、「学術雑誌論文」登録数も伸びている。
- 横浜国立大学は「紀要論文」「学位論文」が伸びているが、「学術雑誌論文」の伸び率、割合が低い傾向にある。

ちなみに：2019年1月以降は新IRDBで分析できるそうです

- IRDBコンテンツ分析システムは2018年12月末でサービス終了
- 新IRDB (<https://dev.irdb.nii.ac.jp/>) からコンテンツ統計の出力が可能。

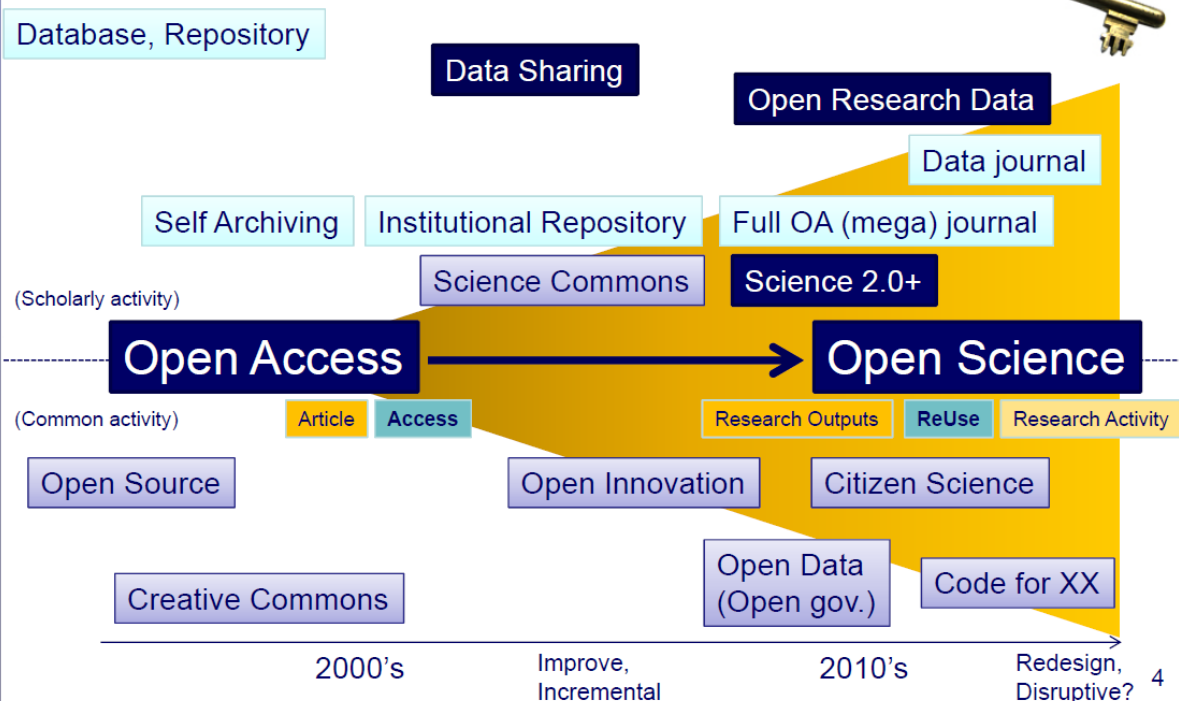
The screenshot shows the IRDB website interface. At the top, there is a dark header with the text "IRDB" in large white letters, followed by "検索" (Search) and "コンテンツ統計(全体)" (Content Statistics (All)). On the right side of the header, there are links for "ログイン" (Login) and "English". Below the header, the main content area has a white background. In the center, the "IRDB" logo is displayed in large blue letters, with the text "学術機関リポジトリデータベース" (Academic Institution Repository Database) and "Institutional Repositories DataBase" below it. To the right of the logo, it says "IRDBの試験運用中。" (IRDB is in trial operation). Below the logo, there is a search bar with a "検索" (Search) button. Under the search bar, there are two tabs: "すべて" (All) and "本文あり" (Full Text). To the right of the tabs, there is a "詳細検索" (Advanced Search) link. At the bottom of the page, there is a section titled "学術機関リポジトリデータベース (IRDB) について" (About Institutional Repositories Database (IRDB)). Below this title, there is a list of links: "学術機関リポジトリデータベースサポート" (Academic Institution Repository Database Support), "JPCOARスキーマガイドライン" (JPCOAR Schema Guidelines), and "国立情報学研究所 (NII)" (National Institute of Informatics).

“green”雑誌掲載論文をリポジトリへ！（という希望）

- 横浜国立大学は2018年よりOA方針策定、研究成果は原則OA化することを求めている。
- ROMEO Colour “green”雑誌に掲載されている論文は積極的に機関リポジトリへ掲載していきたい。
- 一方で、機関リポジトリ登録の作業は研究者にとっても手間がかかるため、この作業に研究者の時間を割かせたくない。
- 少なくとも、組織的に支援している論文はOA化を促進し、機関リポジトリの活用も積極的におこなう。

オープンアクセスはオープンサイエンスの第一歩

Open Access to Open Data and Open Science Overview example (subject to be revised)




- オープンサイエンスは研究成果（論文や研究データ等）を広く共有することによって新たな知の創出を図ろうとする科学の営み。
- 大学内外の研究の在り方も変わっていくことが予期される。

オープンアクセス、オープンサイエンスへの意識喚起

■ オープンサイエンスワークショップ
@横浜国立大学中央図書館メディアホール 2016.2.22
横浜国立大学附属図書館 「「オープンサイエンスワークショップ」を開催しました」 <http://www.ynu.ac.jp/hus/lib/15496/detail.html> (閲覧: 2018-10-20)

■ 附属図書館長及びURAによる教授会での説明
2016.12~2017.2



「研究成果公開に関するポリシー」 策定に向けて

オープンサイエンス潮流への対応

横浜国立大学 研究推進機構
特任教員 (講師) リサーチ・アドミニストレーター
矢吹 命大
yabuki-nobuhiro-gw@ynu.ac.jp

2017年1月16日
国際社会科学研究院 (法律系) 教授会

YNU 横浜国立大学

教員・大学院生の皆さまへ

オープンアクセス 勉強会

横浜国立大学では、オープンアクセス方針の策定に向けて準備を進めています。
内閣府や文部科学省からも学術情報のオープン化が求められている現在、こうした研究成果の公開と共有によって、研究者の皆さまにとって何が起っているのか、これから何が必要とされるのかについて、科学技術・学術政策研究所の林 和弘 氏を講師にお招きし、ご講演いただきます。
特に教員及び大学院生の皆さまのご参加をお待ちしております。

人文系も
社会科学系も
理工学系も
オープンアクセス!

2017年**10月18日(水)** 13:30-14:30
中央図書館1Fメディアホール **予約不要**

講師: 林 和弘 氏 文部科学省 科学技術・学術政策研究所
科学技術予測センター 上席研究官

対象 本学教職員・大学院生

問い合わせ先 横浜国立大学附属図書館 TEL: 045-339-3206
機関リポジトリ担当 e-mail: ir-admin@ynu.ac.jp

YNU 横浜国立大学 附属図書館

■ オープンアクセス勉強会
@横浜国立大学中央図書館メディアホール 2017.10.18
横浜国立大学附属図書館「オープンアクセスに関する勉強会を開催しました」
<http://www.ynu.ac.jp/hus/lib/19076/detail.html> (閲覧: 2018-10-20)

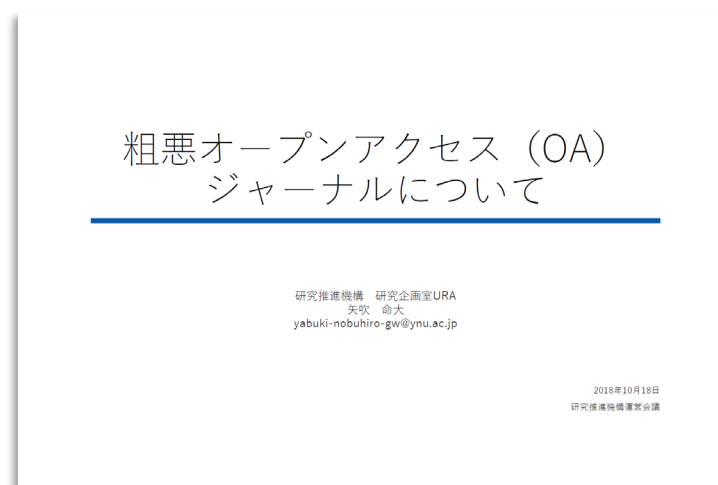
Predatory OA Journalへの警鐘も

Predatory Publisher / Journal（ハゲタカ出版社・ジャーナル）

- OA学術雑誌を標榜しながら、下記のような不適切な出版事業を行う業者やその雑誌。

- 適切な査読が行われていない＝掲載費さえ払えば掲載される
- 著名な専門家を無断で編集者リストに掲載
- 偽ったインパクトファクターの掲示

など、研究倫理の面から問題がある



7. 論文投稿支援と機関リポジトリ

論文投稿料等支援事業と機関リポジトリ

- 政策動向調査
 - 科学技術・学術政策の最新動向をまとめ、毎月レポートを作成し展開
- 研究力分析：研究IR
 - 書誌データを用いた研究活動の把握と分析
→学内DBや二次文献DB等を用いた分析を実施
- 公募事業申請支援
 - 全学単位での申請となるプロジェクトの企画、申請支援の実施
- **論文投稿料等支援事業（研究推進課、経理課、図書館情報課と連携）**
 - 一定の基準を満たした国際ジャーナルへの投稿料等を支援制度の企画運用
- オープンサイエンスの推進（附属図書館との連携）
 - オープンサイエンスワークショップ
 - オープンアクセス勉強会

影響度の高い国際学術雑誌への投稿料を支援

The screenshot shows the homepage of the YNU Research Promotion Institute (YNU 研究推進機構). The main navigation bar includes links for TOP, Overview, Research Strategy, Academic Cooperation, Research Support, and Competitive Research Funding. The central banner features the YNU logo and the title 'Checklist International Journal Article Submission Support Project' (査読付国際ジャーナル論文投稿支援事業). Below the banner, there is a section for 'Support Purpose' (支援目的) explaining the goal of supporting high-impact international journals. The 'Support Content' (支援内容) section details the support for article submission fees, APCs, and other costs. The 'Support Targets' (支援対象者) section lists the eligible researchers. The 'Support Articles' (支援対象論文) section specifies the criteria for supported articles, including a 50% ranking requirement in the Impact Factor. The right sidebar contains links to research support information, a database, and a list of research initiatives.

- 2017年度は学長戦略経費、2018年度は横浜国立大学基金を活用して実施。
- 分野別IF順位上位50%となるジャーナルへの投稿を支援。
- 支援対象にはAPCも含む。
- 本事業を活用した論文は、OA化を推奨し、機関リポジトリの活用も案内している。

申請項目の簡素化、連絡の迅速化への工夫

- Microsoft Forms及びFlowを利用して関係各所への連絡を自動化
経理課（支払い伝票情報の提供依頼）、研究推進課（研究者総覧への入力依頼）、
図書館情報課（機関リポジトリへの登録案内依頼）
- 機関リポジトリ登録を教員が希望すると、申し込みと同時に図書館担当者へも連絡メールが届く。
- Crossref API活用により、書誌情報入力をDOIのみに省力化

10

公表された論文について、横浜国立大学学術情報リポジトリへの登録し、論文のオープンアクセス化（OA）を希望しますか。*

「希望する」を選ぶと、附属図書館において登録リポジトリへの登録が可能かを調べ、手続きのご案内をいたします。

※平成30年2月8日教育研究評議会決定「横浜国立大学オープンアクセス方針」により学術論文等の原則オープンアクセス化が求められています。

<http://www.lib.ynu.ac.jp/hus/lib/19774/>

オープンアクセス化を行うとサイテーションの向上も期待されます。

☐ 希望する

☐ APC等を支払いOAにする、もしくはOAジャーナルへの掲載であるため不要

論文投稿料等支援事業申し込みフォーム(Microsoft Flow)より抜粋

[PFS2018]論文投稿料等支援事業に係る機関リポジトリ登録希望について

附属図書館機関リポジトリ ご担当者様


研究推進機構論文投稿料等支援事業担当です。



下記論文に関する申請において、機関リポジトリへの登録が希望されました。

つきましては、登録手続きのご案内と登録作業の支援をお願いいたします。


申請者:  予算管理者ご... x 先生



代理申請者:  代理申請者の... x 様

代理申請者メールアドレス:  Responders' E... x

論文タイトル:  投稿する論文... x  title x

DOI: <https://doi.org/>  doi x

Crossref metadata Search: <https://search.crossref.org/?q=>  doi x

収録雑誌名:  投稿する論文... x  journal x

ISSN:  issn x

以上よろしく申し上げます。

(本メールはMicrosoft flowを用いた自動送信メールです)

Microsoft Flow の設定画面より抜粋

Crossref APIの活用による書誌情報入手の省力化

- Crossrefが提供するAPIを活用
<https://www.crossref.org/services/metadata-delivery/rest-api/>
- 特定のアドレスに特定の形式で問い合わせると書誌情報が返ってくる。

例えば…

<https://api.crossref.org/works/10.1002/j.1460-2075.1992.tb05481.x>

```
{
  "status": "ok",
  "message-type": "work",
  "message-version": "1.0.0",
  "message": {
    "indexed": {
      "date-parts": [
        [
          2018, 10, 20
        ]
      ],
      "date-time": "2018-10-20T06:22:53Z",
      "timestamp": 1540016573876
    },
    "reference-count": 0,
    "publisher": "Wiley",
    "issue": "11",
    "license": {
      "URL": "http://www.onlinelibrary.wiley.com/termsAndConditions#vor",
      "start": {
        "date-parts": [
          [
            1992, 11, 1
          ]
        ],
        "date-time": "1992-11-01T00:00:00Z",
        "timestamp": 720576000000
      },
      "delay-in-days": 0,
      "content-version": "vor"
    },
    "content-domain": {
      "domain": [],
      "crossmark-restriction": false
    },
    "short-container-title": [
      "The EMBO Journal"
    ],
    "published-print": {
      "date-parts": [
        [
          1992, 11
        ]
      ]
    },
    "DOI": "10.1002/j.1460-2075.1992.tb05481.x",
    "type": "journal-article",
    "created": {
      "date-parts": [
        [
          2018, 9, 6
        ]
      ],
      "date-time": "2018-09-06T17:22:34Z",
      "timestamp": 1536254554000
    },
    "page": "3887-3895",
    "source": "Crossref",
    "is-referenced-by-count": 47,
    "title": [
      "Induced expression of PD-1, a novel member of the immunoglobulin gene superfamily, upon programmed cell death."
    ],
    "prefix": "10.1002",
    "volume": "11",
    "author": [
      {
        "given": "Y.",
        "family": "Ishida",
        "sequence": "first",
        "affiliation": []
      },
      {
        "given": "Y.",
        "family": "Agata",
        "sequence": "additional",
        "affiliation": []
      },
      {
        "given": "K.",
        "family": "Shibahara",
        "sequence": "additional",
        "affiliation": []
      }
    ],
    "member": "311",
    "published-online": {
      "date-parts": [
        [
          1992, 11, 1
        ]
      ]
    },
    "container-title": [
      "The EMBO Journal"
    ],
    "original-title": [],
    "language": "en",
    "link": [
      {
        "URL": "https://api.wiley.com/onlinelibrary/doi/10.1002/j.1460-2075.1992.tb05481.x",
        "content-type": "application/pdf",
        "content-version": "vor",
        "intended-application": "text-mining"
      },
      {
        "URL": "http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/j.1460-2075.1992.tb05481.x/fullpdf",
        "content-type": "unspecified",
        "content-version": "vor",
        "intended-application": "similarity-checking"
      }
    ],
    "deposited": {
      "date-parts": [
        [
          2018, 9, 6
        ]
      ],
      "date-time": "2018-09-06T17:22:52Z",
      "timestamp": 1536254572000
    },
    "score": 1.0,
    "subtitle": [],
    "short-title": [],
    "issued": {
      "date-parts": [
        [
          1992, 11
        ]
      ]
    },
    "references-count": 0,
    "journal-issue": {
      "published-print": {
        "date-parts": [
          [
            1992, 11
          ]
        ]
      },
      "issue": "11"
    },
    "URL": "http://dx.doi.org/10.1002/j.1460-2075.1992.tb05481.x",
    "archive": [
      "Portico"
    ],
    "relation": {},
    "ISSN": [
      "0261-4189"
    ],
    "issn-type": [
      "value": "0261-4189",
      "type": "print"
    ],
    "subject": [
      "General Biochemistry, Genetics and Molecular Biology",
      "General Immunology and Microbiology",
      "General Neuroscience",
      "Molecular Biology"
    ]
  }
}
```

CrossrefAPI.php

```
{
  "doi": "10.1002/j.1460-2075.1992.tb05481.x",
  "title": "Induced expression of PD-1, a novel member of the immunoglobulin gene superfamily, upon programmed cell death.",
  "journal": "The EMBO Journal",
  "issn": "0261-4189"
}
```

※APIの利用に際しては過剰なアクセスが発生しないように注意が必要です。

8. 教育系・人文社会系と機関リポジトリ

国際ジャーナル掲載論文だけが研究成果ではない

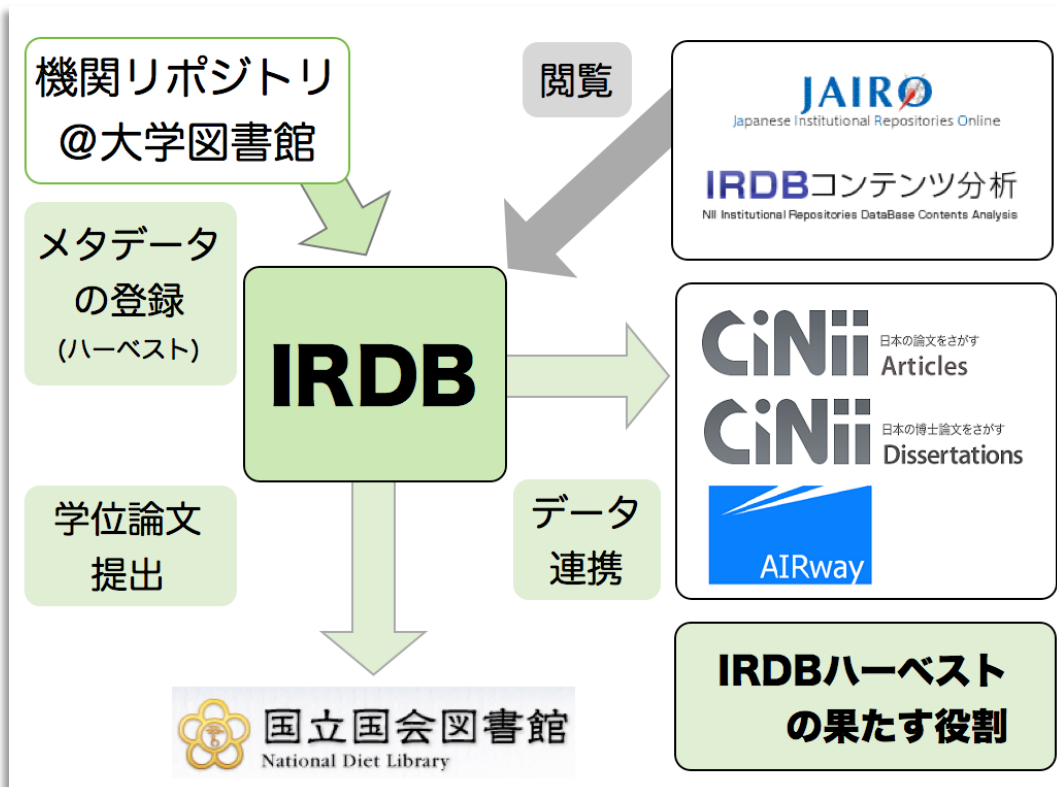
- 和文学術雑誌論文や紀要論文も研究活動分析には把握する必要がある。
 - 特に教育系・人社系の研究成果は和文で多く展開されている
- 紀要論文発表のプラットフォームとして機関リポジトリの役割が大きい。
 - IRDB全体で紀要論文は53.19%（2018年10月）
 - 横浜国立大学学術情報リポジトリ登録コンテンツの約66%が紀要論文（2018年10月）
- リポジトリは紀要論文など限られたコミュニティで共有されていた研究成果をより広く展開することを可能とする。

横浜国立大学学術情報リポジトリ「ランキング」 <https://ynu.repo.nii.ac.jp/>（閲覧：2018-10-23）

機関リポジトリを含めて研究成果を把握したい

- CiNiiを用いると和文論文や紀要論文情報を含めて多くの論文情報が取得できる。
- ただし、機関リポジトリ登録の紀要論文についてはメタデータが十分にCiNiiに伝わっていない問題がある。
 - 例えば、機関リポジトリでのみ出版されている紀要論文は、タイトル、著者名等はCiNii Articleの書誌情報に含まれるが、著者所属情報が含まれない。機関リポジトリ側で検索すると、所属情報も含まれている。
 - junii2とCiNii Articleのデータ関係項目に所属情報が含まれないため、CiNiiでは所属検索結果が不十分となることが原因？
 - 著者ID名寄せ問題も（CiNii 著者IDがばらけているケースが多くある）
- 和文論文の横断的な分析はこれからの課題

参考：IRDBハーベストでCiNiiに連携されるデータ項目の対応について



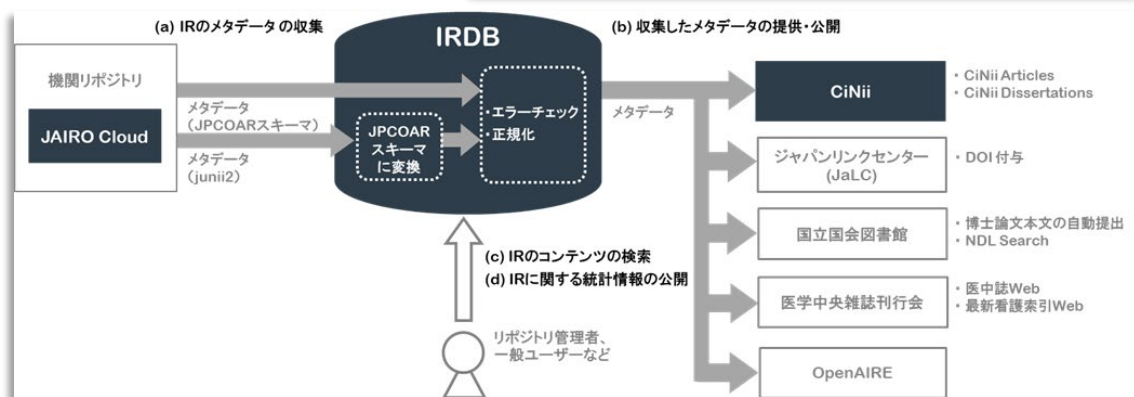
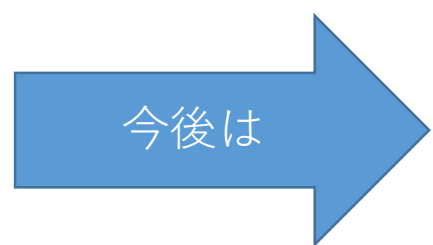
国立情報学研究所 学術機関リポジトリ構築連携支援事業「IRDBハーベストについて」
https://www.nii.ac.jp/irp/archive/system/irdb_harvest.html (閲覧：2018-10-20)

CiNiiに連携されるデータ項目の対応について

●CiNii Articles

ハーベストされたデータは以下のjunii2とCiNii Articlesのマッピング表に従って連携されます。なお、IRDBから連携されたメタデータの言語属性はCiNiiでは日本語となります。

CiNii Articles 項目名			CiNii Articles 言語属性	junii2 要素名
本文言語コード			-	language
資料種別			日	NIItype
レポート番号			-	
著書名			日	creator
所属			日	
論文名			和文	title
			英文	alternative
			原文	
雑誌名			日	jtitle
出版事項	巻号		-	volume, issue
	ページ	開始	-	space
		終了	-	epage
	出版年		-	dateofissued
出版社等	出版社		日	
	編集者		日	contributor
	提供者		日	pub lisher
	分類記号		-	
	記事分類		-	
請求記号			-	
雑誌種別			-	
雑誌記事索引ID			-	
所蔵			-	NCID
抄録			日	description
ISSN			-	issn
著者キーワード			日	subject
キーワード(その他)			日	
DOI番号			-	selfDOI
本文URL			-	URI

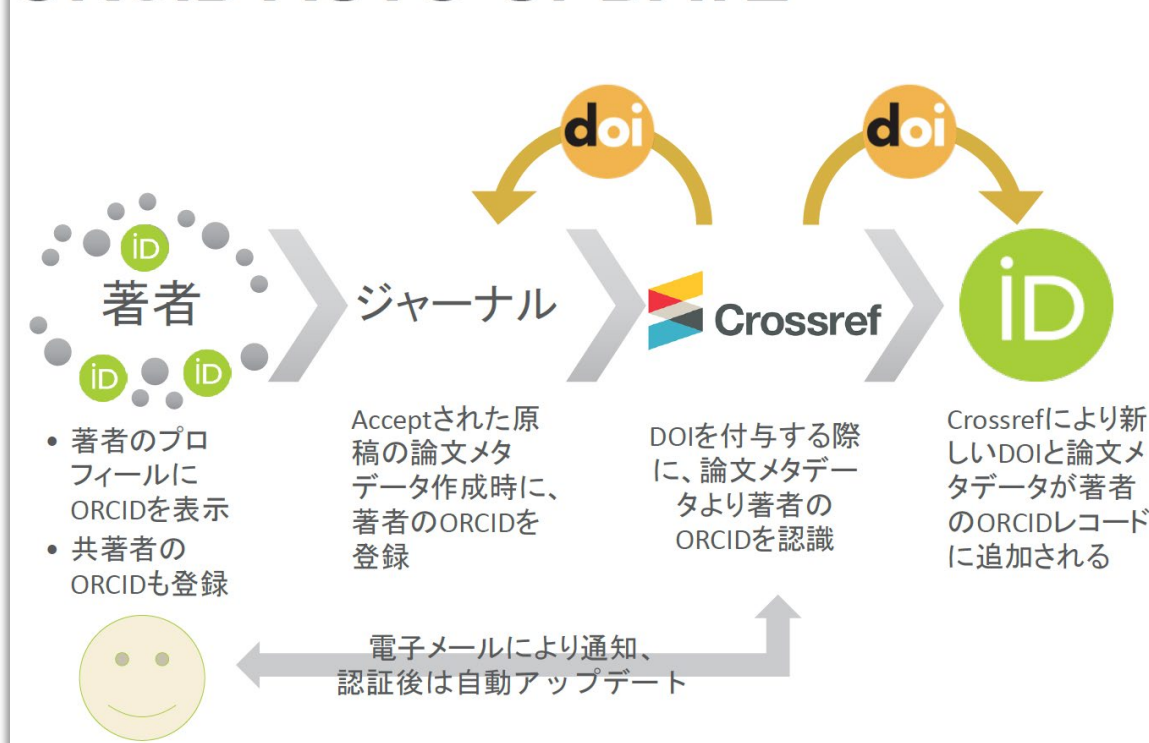


9. 機関リポジトリとORCID

機関リポジトリとORCIDの連携で国際的な情報発信へ

- ORCID(Open Researcher & Contributor ID)世界中の研究者に一意のIDを付与する非営利団体。

ORCID AUTO-UPDATE



- ORCIDには、研究業績等の情報が記録される。
- 出版社やDOI発行機関と連携し、ID保有者が許可すれば出版と同時に著者のORCIDに論文情報を書き込むことが可能になっている。
- 所属情報についてもID保有者が許可すれば所属機関が書き込むことができる。
- ORCID記載情報を第三者が保証する仕組みとなっている。

宮入暢子「国際研究者識別子ORCIDの活用：研究者の視点から」

http://www.ripo.ynu.ac.jp/news/orcid_workshop_201803.html（閲覧：2018-10-20）より抜粋

Search

English

EDIT YOUR RECORD

ABOUT ORCID

CONTACT US

HELP


ORCID


Connecting Research and Researchers

5,455,539 ORCID IDs and counting. [See more...](#)

Nobuhiro Yabuki

ORCID ID

 <https://orcid.org/0000-0001-9008-7100>

 [Print view?](#)

Also known as

矢吹命大

Country

Japan

Keywords

international relations, science and
technoogy policy, fusion science,
energy security

Websites

[-Yokohama National University
Researcher Database](#)

[-researchmap](#)

Other IDs

[ResearcherID: O-4009-2014](#)

▼ Employment (3)

Sort

Yokohama National University: Yokohama, Kanagawa

2017-07-01 to present | Specially Appointed Associate Professor (Research Initiatives and Promotion Organization)

Employment

Source: Nobuhiro Yabuki

Preferred source

Yokohama National University: Yokohama, Kanagawa

2014-04-01 to 2017-06-31 | Specially Appointed Assistant Profesoer (Research Initiatives and Promotion Organization)

Employment

Source: Nobuhiro Yabuki

Preferred source

University of Tsukuba: Tsukuba, Ibaraki

2012-04-01 to 2014-03-31 | Junior Researcher (Graduate School of Humanities and Social Sciences)

Employment

Source: Nobuhiro Yabuki

Preferred source

▼ Education and qualifications (2)

Sort

University of Tsukuba: Tsukuba, Ibaraki

2005-04-01 to 2012-03-31 | MA / International Political Economy (Graduate School of Humanities and Social Sciences)

Education

▼ Works (4 of 4)

Sort

Analysis of Research Activities at Yokohama National University:
Focusing on Research Projects Adopted by KAKENHI

The Journal of Information Science and Technology Association

2017 | journal-article

DOI: [10.18919/jkg.67.4_185](#)

Source: ResearcherID

Preferred source

<https://orcid.org/0000-0001-9008-7100>

62

ORCID Member Organizations

ORCID is a non-profit organization supported by a global community of organizational members, including research organizations, publishers, funders, professional associations, and other stakeholders in the research ecosystem. Interested in becoming a member? [Learn more about membership](#)

There are currently 12 ORCID Member Organizations

[All members](#) | [Consortia members](#)

Japan

Research Institute

Reset


ALLA B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z

High Energy Accelerator Research Organization (KEK)

Research Institute | Japan

Keio University


Research Institute | Japan



Established in 1858 by Yukichi Fukuzawa as a private university, Keio is Japan's very first private institution of higher learning. Keio is more than 150 years since its founding, Keio's motto of jitsugaku, or empirical science, as it has been a modern nation through contributions to education, research, and industry.

Kyoto University


Research Institute | Japan



Kyoto University is a leading Japanese university. It is home to 10 undergraduate departments, comprehensive graduate schools, research centers, and boasts the best in Japan. It also holds more than 100 overseas branches. To date, Kyoto University has graduated more than 100,000 researchers, many of whom are now actively engaged in academic research in industry and government. Kyoto University engages in pure and applied research in humanities, social sciences, natural sciences, and technology with integrated perspectives of renowned diversity. Kyoto University has the largest number of international students both in Japan and Asia as of 2017.

National Institute for Materials Science (NIMS)

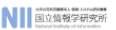
Research Institute | Japan



NIMS is Japan's sole National Research Institute specializing in materials science. NIMS is charged with basic research in materials science, and to advance the level of expertise in the field.

National Institute of Informatics (NII)

Research Institute | Japan



National Institute of Informatics (NII) is an independent research institution for informatics, NII seeks to advance international research in the field of informatics. As an inter-university research institution, NII has established a state-of-the-art academic-information infrastructure that is essential for education within the broader academic community, with a focus on joint efforts with universities and research institutions through various programs.

National Institutes of Natural Sciences (NINS)


Research Institute | Japan



The National Institutes of Natural Sciences (NINS) is a research organization that utilizes joint research to researchers from various universities in Japan as an inter-university research institution. NINS is an international and leading research by establishing and operating research centers in the fields of natural sciences involved in space, energy, materials, and life sciences. NINS includes the National Astronomical Observatory of Japan, National Institute for Fundamental and Interdisciplinary Science Research, National Institute for Basic Biology, National Institute for Physiological Sciences, Center for Novel Science Initiatives, Astrobiology Center, and Center on Life and Living Systems).

Niigata University


Research Institute | Japan



Niigata University is a public university located in Niigata City, Japan. It was established in 1949 and is one of the oldest universities in Japan. The university has a long history of research and education in various fields, including science, engineering, medicine, and humanities. It is known for its research in materials science, particularly in the development of high-strength steel and composite materials.

Sokendai (The Graduate University for Advanced Studies)

Research Institute | Japan



Established in 1988, SOKENDAI is the nation's first graduate university founded in alliance with 18 national research institutes for advanced studies in a variety of academic fields ranging from particle & nuclear physics to ethnology. SOKENDAI has been dedicated to promoting integrated scientific research and to fostering the next generation of leaders in a global academic community.

Tokyo Institute of Technology


Research Institute | Japan



Tokyo Institute of Technology is the top national university for science and technology in Japan with a history spanning more than 130 years. Of the approximately 10,000 students at the Ookayama, Suzukakedai, and Tamachi Campuses, half are in their bachelor's degree program while the other half are in master's and doctoral degree programs. International students number 1,200. There are 1,200 faculty and 600 administrative and technical staff members.

University of Tsukuba

Research Institute | Japan



The University of Tsukuba aims to establish free exchange and close relationships in both basic and applied sciences with educational and research organizations and academic communities in Japan and overseas. While developing these relationships, we intend to pursue education and research to cultivate men and women with creative intelligence and rich human qualities.

University of Toyama


Research Institute | Japan



The University of Toyama is located in Toyama Prefecture, on the West coast of Honshu Island. The University of Toyama is a comprehensive university with 11 faculties and 10 departments. It was founded in 1949 as Toyama University (founded in 1949) and Takaoka National University (founded in 1975) and merged into the University of Toyama in October 2005. This integrated university houses the University Laboratory, Hospital, and Library, and the International Education and Research Center.

Yokohama National University


Research Institute | Japan



Yokohama National University, located in the historically international city of Yokohama, was established in 1949 with a history of its original foundation in 1876 as a normal school. Today, it comprises 5 Undergraduate Colleges (Education, Economics, Business Administration, Engineering Science, and Urban Sciences) and 5 Graduate Schools (Education, International Social Sciences, Engineering, Environment and Information Sciences, and Urban Innovation). It has developed into a university with about 1,000 staff and faculty and 10,000 students.

Yokohama National University

Research Institute | Japan



Based on sixty years of history and tradition, YNU is highly internationalized, as it respects and strives to respond to the needs of society across the globe by integrating multi-disciplinary and cross-border knowledge. The university is determined to provide practical knowledge to its students and to administer research and education with the aim of becoming a university that is more accessible to society and eagerly welcomes new challenges.

ORCIDの日本普及を行うコンソーシアムが準備中

ORCID Japan Consortium for Research Institutions

日本の大学・研究機関におけるORCIDコンソーシアムを検討する会

Materials コンソーシアム設立賛同署名のお願い コンソーシアム運営委員会 懇談会参加機関 活動実績 お問い合わせ

ORCID日本コンソーシアムを検討する

orcid

未分類

2017-10-11

📎

コンソーシアム設立に関する賛同署名のお願い（準備中）

（準備中）賛同署名にご協力いただける方は、上記リンクをクリックしてください。

2017年10月より、ORCIDの機関会員を中心として、日本の大学・研究機関を対象としたコンソーシアムを検討とその設立準備を進めています。

- 懇談会の参加機関
- 学協会を対象としたコンソーシアム
- ORCID日本コンソーシアム運営委員会委員名簿
- ORCID日本コンソーシアム運営委員会・議事録（Invitation Only）
- ORCID関連文書翻訳プロジェクト（Invitation Only）
- 技術情報の共有（Google Groups, Open Forum）

20180417 ORCID Member Meeting @ Japan

森雅生

未分類

2018-04-17

Search

Search

最近の投稿

20180417 ORCID Member Meeting @ Japan

ORCID文書和訳：コンソーシアムの役割と責任

リスボンのworkshopから

ORCID blog記事：日本のORCID機関会員による協力体制に向けて

ORCID 5th anniversary

最近のコメント

アーカイブ

2018年4月

2018年2月

2017年12月

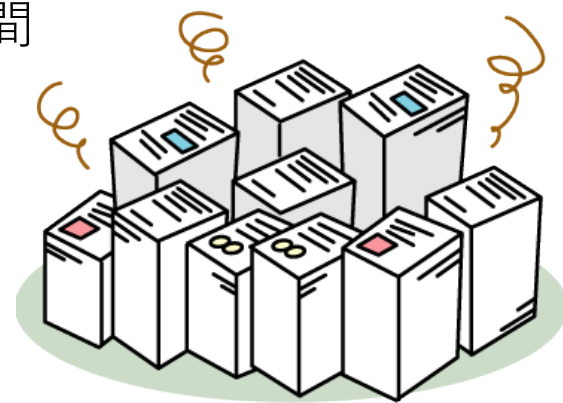
2017年10月

10. 機関リポジトリ登録数の増加によるOA拡大

なるべく手間（とお金）をかけずにOA化を推進したい

- 機関リポジトリへの登録はなかなか面倒くさい

- そもそも本人が申請しないと出来ないことも手間
- 登録許諾書の作成も手間
- 共著者の許諾を得るのも手間
- 国内誌はポリシーがよくわからないものも



- 申請する側も、受け付ける側もできるだけ手間のかからないワークフローの構築が重要

- 紙の作業はゼロにする。→手続きは可能な限り電子化
- 申請者にしかわからない情報だけを申請すればすむように
- 論文発表状況の把握と連携させた申請を推奨する取り組み

11. 終わりに

機関リポジトリは学術情報流通の最前線

- Research Commonsとしての大学図書館
 - Learning Commonsとしての重要性に加えて、機関の研究活動を支える Research Commonsとしての機能への期待
 - 研究ライフサイクルの各段階に対する図書館の貢献も期待される
- 学術情報流通の最前線としての機関リポジトリ
 - 機関リポジトリは大学の知識を社会へ展開する有力なプラットフォーム
 - 利用者(読者)視点のコンテンツ拡充と同時に著者・機関視点の戦略的情報発信基盤としてのリポジトリとの見方も重要